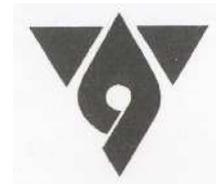


かながわ学びづくり推進地域研究委託事業（秦野市）

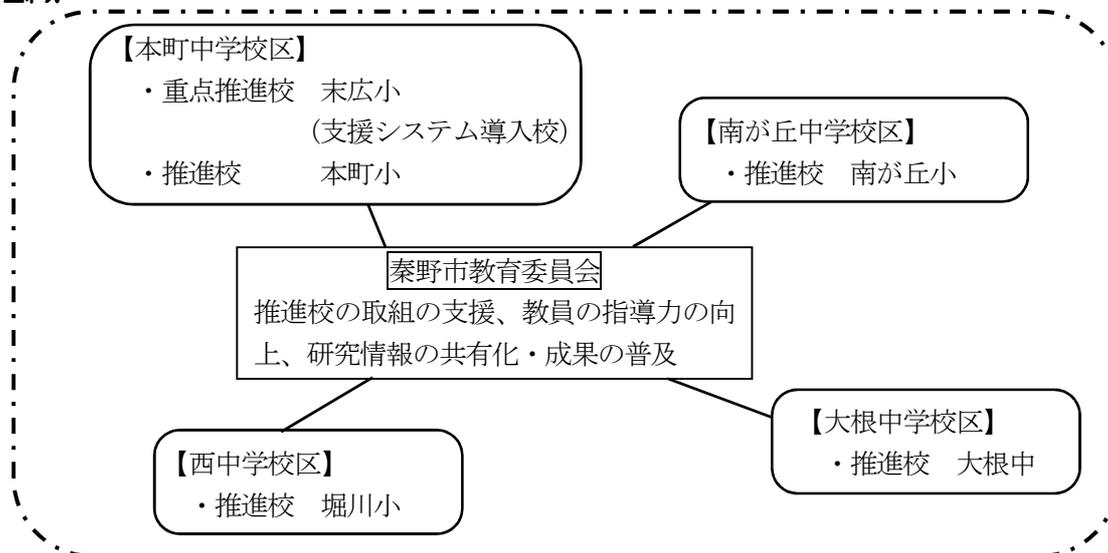
令和2年1月17日資料

1 秦野市 学びづくり推進地域研究テーマ

「学びの高まりと授業改善」



2 研究組織



3 取組内容

(1) 末広小の取組

講師に横浜国立大学非常勤講師の白井達夫先生を招き、単元を見通した授業づくりのために「単元構想シート」を作成し、評価を含めた計画的な学習指導を目指している。まず教師が学習指導と評価の関係について見通しを持った上で、児童が学びを深められるよう授業改善を進めている。研究授業後は、ワールドカフェ方式を採用した協議会を実施し、活発な意見交換を行っている。



《単元の流れの説明》

(2) 大根中の取組



《研究授業の実施》

星槎大学の阿部利彦教授を講師として、授業UDについて研究に取り組んでいる。講師からはUDの3本柱として「視覚化」「焦点化」「共有化」、5つのテクニックとして「ひきつける」「方向づける」「そろえる」「むすびつける」「わかったと実感させる」ことが重要であるとの示唆を受け、教科を越えて全職員で授業を改善していこうと研究を深めている。

(3) 本町小・南が丘小・堀川小の取組

本町小では体育科研究に取り組み、横浜国立大学の梅澤秋久教授を講師に招聘している。南が丘小では、横浜国立大学の青山浩之教授を講師として、道徳を中心とした授業改善の研究に取り組んでいる。堀川小では算数の研究に取り組み、横浜国立大学の両角達男教授から指導・助言を受けて、授業研究会等で研究を深めている。

4 まとめ

授業研究会や講師による講演会については、積極的に市内小中学校に公開する学校が増え、全市的に授業改善・学力向上の気運が高まっている。市教育委員会としても学習支援担当指導主事の学校への訪問回数を約3倍に増やし、指導案検討や事前授業の段階から関わりを持ち、「協働」で授業改善に取り組んでいる。